

「POSデータクレンジングサービス」

リリースまでの舞台裏を開発者に聞く

株式会社 True Data と共同開発し、2023年9月にリリースした「POSデータクレンジングサービス」。その開発はどのように始まり、どのように進められてきたのか。True Data で開発を担当したデータマーケティング部 インタラクティブ・データグループ 長 兼 アナリティクス&テクノロジー部 バリュース・クリエイション担当の竹村博徳氏をお招きし、当社ネットワーク推進本部企画開発部の橋正剛とリリースに至るまでの舞台裏を語り合っていた。



(左) 竹村 博徳 氏 / 株式会社 True Data
データマーケティング部 インタラクティブ・データグループ 長 兼 アナリティクス&テクノロジー部 バリュース・クリエイション担当
(右) 橋 正剛 / 株式会社 プラネット
ネットワーク推進本部 企画開発部 アシスタントマネージャー

お問い合わせ先

株式会社プラネット ネットワーク推進本部 営業部
Mail : eigyo@planet-van.co.jp

お気軽にご相談ください

形式の異なる POS データを
簡単な操作で

共通のレイアウトに変換

プラネットと True Data が共同開発した POS データクレンジングサービスは、小売業ごとにレイアウトの異なる POS データを簡単な操作で、共通レイアウトに自動変換できるクラウドサービスです。

これを利用することにより、各メーカーでの煩わしいデータ整形（クレンジング）作業が軽減し、分析に集中できるほか、クレンジングされた POS データは、メーカー独自の商品・店舗マスタ^{※1}や、True Data の商品マスタ^{※2}、プラネットの店舗マスタ

（取引先データベース）^{※3}から必要な情報を付与するため、例えば、メーカー

が自社では把握できなかった様々な情報も含めて市場全体の動向を分析したり、納品データと購買データを紐づけて在庫の最適化を検討したりすることができ、自社の戦略に合わせた高度なデータ活用が可能になります（図表1）。

開発に携わった橋正剛は、サービス誕生の背景について次のように語ります。

「全体を俯瞰するデータ分析を行うためには、共通レイアウトへの変換、共通コード、共通分類への変換が必要になってきます。しかし、それがメーカーにとって大きな負担になり、

十分な分析ができていない実態がありました。

当社では以前、小売業界で統一された POS データの標準形式があった方がよいのではないかと議論がありましたが、実現するにはコストも時間も相当かかるだろうという結論でした。そこで、True Data との業務提携後の取り組みとして、メーカーの POS データ分析に協力できることはないか、両社で検討を始めました」

両社のデータを紐づける
テストからスタート

最初は True Data が用意したダミーの POS データにプラネット

の取引先データベースを紐づけるテストからスタートしました。

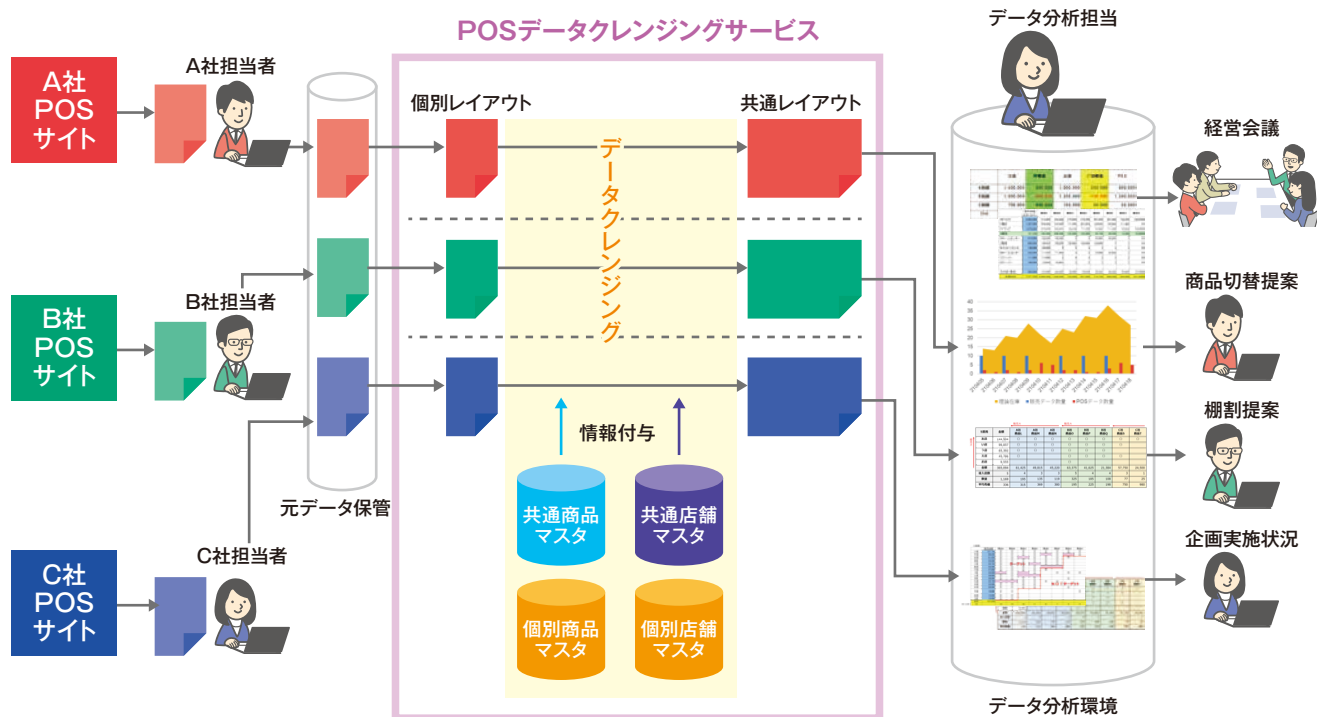
「当時、私は POS データを使った棚割や販促をメーカーや卸売業に提案する業務に携わっていましたが、メーカーが小売業から提供される POS データは企業ごとにレイアウトも形式も様々で、POS データの活用、特に小売業ごとの POS データを統合して活用しているメーカーは少ないという印象でした」（竹村博徳氏）

その後、流通業界内で True Data のデータクレンジング技術とプラネットの取引先データベースを活かし、小売業ごとに異なる POS データを共通レイアウトに変換する

※1：メーカー独自の「商品マスタ」とは、クライアント企業が作成された商品コードや型番、JANコードなどの商品情報をまとめたもの。メーカー独自の「店舗マスタ」とは、クライアント企業が作成された小売店舗の基本情報をまとめたもの ※2：様々な小売業の購買データを扱う True Data が運用する標準商品マスタ ※3：プラネットが運用する、全国約47万件の小売業店舗、卸売業拠点情報を搭載したデータベース

図表1 活用イメージ

収集した企業POSデータをPOSデータクレンジングサービスに通すことで、共通レイアウトに変換します。自動更新される共通商品マスタ、共通店舗マスタによりマスタメンテナンス作業が軽減されますので、データ分析に注力できるようになります。



実験などが行われました。

「結果として、共通レイアウトに変換し、標準取引先コードが付与されることで、データ活用範囲が広がる可能性が見えてきました」（橋）

「実験を通して、データクレンジング作業が思いのほか手間取り、POSデータ分析に注力し難いことが分かりました。それが、POSデータクレンジングをアウトソーシングできるサービスを検討するきっかけになりました」（竹村氏）

「また、大手メーカーから中堅メーカーまで多数のお客様にヒアリングしたことも有効でした。その中でも、中堅メーカーの担当者がデータ処理に困っていることが分かりました。そこで、いただいたご意見やアイデアを取り入れながら、要件定義をまとめ、基本設計に入りました」（橋）

両社の「相互理解」を深め付加価値の高いサービスを追求

しかし、ここでプラネットとTrue Dataの考え方の違いが課題となりました。

「プラネットは、安全・中立・標準・継続・安価に、業界インフラサービスを提供する考え方。True Dataは、それぞれの企業に最適なデータ分析を提供する考え方。お互いに

価値観を理解しながら、サービスをデザインすることには時間を要しました。当社が想定していた『自動化する』『インフラシステムをつくる』という点が伝わりづらかったように思います。True Dataのサービスは人が介在している部分があり、すべてをシステムでやらなくてもよいという意見でした。一方、当社はデータの自身にタッチせず、なるべく自動化するという方針で今までのサービスをつくり上げてきており、そうしたお互いの考え方の違いをすり合わせるのに多くの時間を割きました」（橋）

さらに竹村氏は、「自動化を踏まえただ上で、必要なデータをいつどのようにつづけるかといった点に一番時間がかかったと思います。結果的に、それぞれの役割をマッピングしたサービス概要のようなものができて初めて、細かい部分を詰めることができるようになりました」と続けます。

開発の中では、小売業ごとに異なるPOSデータを整えるだけでなく、もう一步踏み込み、より付加価値の高いサービスにするための施策が考え抜かれました。

「お客様の立場からすると、そのシステムが使いやすいかどうかが重要です。基本設計を終えた後は、パソコン

図表2 「POSデータクレンジングサービス」TOP画面



TOP画面は、シンプルな画面構成でボタンを大きく配置して、分かりやすくしています。

画面上のボタンの大きさをどうするかといった、快適なUI、UX^{※4}を提供するための施策に時間をかけました。『誰でも簡単に使える』を具体化したものとして、ボタンの大きさや登録のしやすさなどがあります。お客様が最初からつまづかないようにするためにも、操作画面をできるだけ分かりやすいものにする必要があります。

ました(図表2)。(竹村氏)

「当社はMITEOS(ミテオス)というサービスを提供していますが、そのサービスでは操作ボタンをすべて大きくしています。誰でも分かりやすいシステムにしようという理由からです。

POSデータのクレンジング作業は、データをアップロードし、実行ボタンを押せば完了する仕組みですが、クレンジング処理をいつ行うのが課題でした。データの大きさによつては非常に長い時間を要し、業務の妨げになることも考えられます。そこで、夜間実行のプログラムをつくり、データを夕方にアップロードすれば、翌朝にできあがっているような仕組みも導入しました。(橋)

店舗在庫を可視化し サプライチェーンを最適化

POSデータクレンジングサービスは昨年9月にリリースされたばかり。今後も両社の協調により、お客様にとってさらに価値を持つサービスに進化させていく考えです。

「あらゆるデータは意思決定を下すためのツールと捉えているので、そのデータを見ることによつてAかBか、どちらのアクションを選択すればよいのかが分かるのが理想です。



2023年10月13日に東京、11月10日に大阪、11月21日にウェビナーにて、「POSデータクレンジングサービス説明会」を開催しました。

このサービスがそれを実現するための一つの手段になればよいと考えています。今後もメーカーにとつての価値を突き詰め、両社の強みを生かしながら次につなげていきたいと思っています。(竹村氏)

「メーカーや卸売業から小売店舗に出荷した納品データと、実際に店頭で売れたPOSデータを結び付けることで各店舗の在庫状況を可視化し、メーカーのサプライチェーンの最適化につなげるというのがこのサービスの最大のミッションです。その目的に向け、より使いやすく精度の高いものになるよう、さらにブラッシュアップを重ねていきます。

実際に説明会でサービスを紹介すると、お客様の期待が大きいことを感じました。多くのお客様に安心してご利用いただき、またデータ分析に注力いただけるよう、努力していきます。(橋)

※4: UI (ユーザーインターフェイス)、UX (ユーザーエクスペリエンス) : UIはパソコンの画面上などで、文字やボタンの大きさ、画像の見やすさなど、ユーザーが目にするすべての情報。UXはユーザーがシステムやサービスを通じて得られる体験のことで、使いやすい、心地よいなどの感覚も含む